

富木殿御書

けかち（飢渴）申すばかりなし。米一合もうらず。がし（餓死）しぬべし。此御房たちもみなかへして但一人候べし。このよしを御房たちにもかたらせ給。

十二日さかわ（酒輪）、十三日たけのした（竹ノ下）、十四日くるまがへし（車返）、十五日ををみや（大宮）、十六日なんぶ（南部）、十七日このところ。いまださだまらずといえども、たいし（大旨）はこの山中心中に叶て候へば、しばらくは候はんずらむ。

結句は一人になて日本国に流浪すべきみ（身）にて候。又たちとどまるみ（身）ならば皆さん（見参）に入候べし。恐々謹言。

十七日

ときどの

日蓮

〔花押〕